

## 祝福が私を追って来る

(創世記13・14～18)

## 一、適材適所

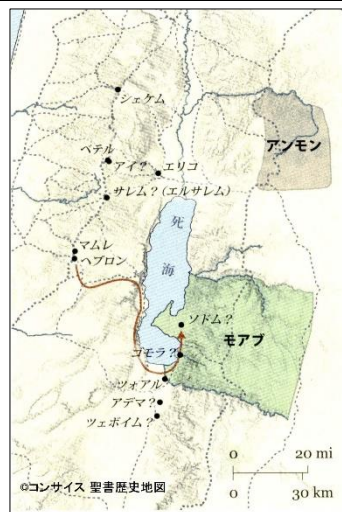
適材適所ということばがあります。「その人の才能、能力にふさわしい地位や仕事を与えること」の意味のようですが、それを受け身に取って、「自分にふさわしい地位や仕事を与えられているか」として捉えてもかまわないかと思えます。大なれ小なれ、私たちは「自分は評価されていない」と思ったことがあるかも知れません。なまじ平均的な人よりも能力がありますと、このように受け止めやすいかと思われれます。ですが、その手の不平不満、愚痴は、キリスト信仰の視点から見ると、罪人の特徴です。その場合の「罪人」とは「悪いことをしている人」という意味ではありません。「神から離れている人」の意味です。キリストを信じ、神に信頼している人は、次のように受け止めることであります。「神がご存じである。隠れているもので、あらわにされないものはなく、秘められたもので、明らかにされないものはない。ちょうど良い時に、神は高く上げてくださる」などなど、いくらでも出てまいります。

## 二、アブラ(ハ)ムとロト

アブラ(ハ)ムが75歳にしてハランを

出てカナンに向かった際、一緒に付いて来た、一族の一人がいました。甥のロトです。親類でありながら、アブラ(ハ)ムとはかなり異なる持ち味と性格を持っていました。なぜロトがハランに留まらず、アブラ(ハ)ムと一緒に出てきたのでしょうか。ひよっとすると、神に従うというアブラ(ハ)ムの姿勢にあこがれて、出てきたのかも知れません。しかし主がアブラ(ハ)ムに語られたことばを、たましいで聞いていたのは、アブラ(ハ)ムであり、ロトではありませんでした。はっきり言いまして、神はロトが祝福の基になるとは考えておられません。その人をどのような器にするかを見ておられます。アブラ(ハ)ムこそ、主のみこころに適った器でした。やがて両者は、互いに持ち物が多いこと、アブラ(ハ)ムの牧者たちとロトの牧者たちの間で争いが起きました。アブラ(ハ)ムはロトに言いました。8節です。

△「私とあなたの間、また私の牧者たちとあなたの牧者たちの間に、争いがないようにしよう。私たちは親類同士のだから。」と。さらに続けて語りました。9節です。△全地はあなたの前にはないか。私から別れて行ってくれないか。あなたが左なら、私は右に行こう。あなたが右なら、私は左に行こう。△と。当然のこと、ロトは「良い場所」を選びました。すると、その後どう



なったでしょうか。12節です。△一方、ロトは低地の町々に住み、ソドムに天幕を移した。△とあります。当然の流れと言えば、当然なのかも知れません。ロトと家族は、罪深い町ソドムに入ってしまった。一方のアブラ(ハ)ムは、ロトが「良い場所」を選んだ結果、カナンに留まることになりました。こういうところを見ますに、やはり主はアブラ(ハ)ムを選ばれたのだと知ります。神の壮大な御計画を実現させるために、アブラ(ハ)ムは、神の選びの器でした。その意味は、非の打ち所が無い人間であったということではありません。動機が清いのです。とは言っても、12章においてはとんでもない過ちを犯しています。アブラ(ハ)ムは、失敗をするとは何倍にも成長する器でした。

## 三、まことの祝福とは

祝福は神からもたらされます。当然と言えば当然です。したがって、自分づかみ取るうとしなくても結構です。

私は、神の祝福が非常に神秘的なものであると受け止めています。平たく言いますなら、ひと度神の祝福にあずかりますと、何があっても主が備えられた道に歩むことができます。神の祝福をいただきますと、道が開かれます。したがって、アブラ(ハ)ムがロトに言ったように、「あなたが左なら、私は右に行こう。あなたが右なら、私は左に行こう」と言うことができます。おそらく相手は喜ぶことではありません。

アブラ(ハ)ムはキリストが誕生する、さらに二千年以上も前の人ですから、当然のこと、キリストによって現された神の恵みを知りませんでした。ですが、主イエス・キリストを知らなかったものの、神の恵み、神の祝福が何たるかを味わい知った器でした。14節、15節をご覧ください。△ロトがアブラムから別れて行った後、主はアブラムに言われた。「さあ、目を上げて、あなたがいるその場所から北、南、東、西を見渡しなさい。わたしは、あなたが見渡しているこの地をすべて、あなたに、そしてあなたの子孫に永久に与えるからだ。」とあります。まさしく、神の恵みと祝福は上からやっけてまいります。箴言(10・22)にあります。「主の祝福そのものが人を富ませ、人の苦勞は何もそれに加えない」と。ダビデのことばを借用するならば、「いつくしみと恵みが私を追って来」